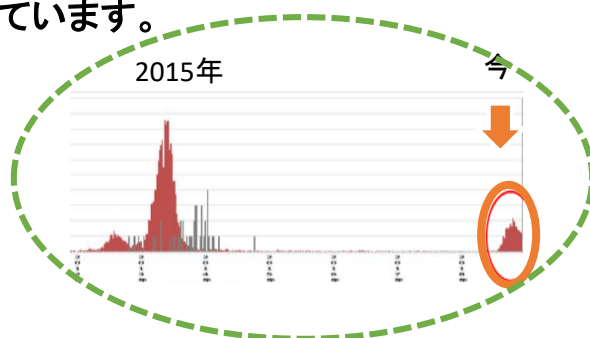


Caution 風しんに注意しましょう！

平成30年8月以降、全国的に風しん患者の拡大があります。山口県でもH30は25例、今年に入ってから8例(H31.2.22現在)の風しん患者が報告されています。

これは、大流行した平成25年の前兆と似た現象になっており、今後も注意が必要です。

患者の中心は30～50代の男性で、この世代の方は、5人に1人は風しんの免疫を持っていないといわれており、注意が必要です。



Question 1

風しんってどんな病気？

風しんウイルスが感染した人のくしゃみやつば、しぶきなどによって他の人にうつります。主な症状として**発疹、発熱、リンパ節の腫れ**です。3つの症状がそろわない人も多く、感染しても症状がない人が約15～30%います。症状がでる前後約1週間は周りの人にうつす可能性があります。

Question 2

なぜ、風しんにかかるとよくないの？

まれに脳炎、血小板減少性紫斑病などの合併症をおこすことがあります。

また、特に、**妊婦が感染すると、赤ちゃんが『先天性風しん症候群』※になる危険性**があります。

※耳がきこえにくくなる、心臓に奇形を生じる、目が見えにくくなるなどの障害

Question 3

風しんの症状が現れたときは？

風しんは感染力が強いため、風しんを疑う症状があれば、**無理をして職場などに行くことをやめ、早めに医療機関に受診**しましょう。

※風しんの可能性がある場合には、**受診前にその旨を医療機関に連絡してから受診**してください。

Question 4

風しんを予防するには？

予防接種が最も有効な予防法です。

定期予防接種の対象年齢(1歳児と小学校入学1年前の幼児)になられたら、なるべく早く予防接種を済ませましょう。

また、**風しんワクチンを受けていない方、風しんにかかったことがない方、どちらも不明な方は風しんの予防接種をご検討**ください。

予防接種の必要性は、抗体検査でわかります。山口県でも妊娠を希望する女性やパートナー等に無料の抗体検査を実施しています。